

ネイチャーウォッチングだより

令和8年10月21日(水)

愛知教育文化振興会

協力:岡崎大学・岡崎短期大学

10月18日(日)、Cグループの第1回ネイチャーウォッチング「里山の生き物ウォッチング」を開催しました。会場は豊川市の東三河ふるさと公園。標高195mの遠見山を中心とした自然豊かで広大な敷地に、庭園や山野草園、展望ツツジ園などが整備された県営の施設です。快晴の青空が広がる絶好の天候に恵まれ、19組64名の親子の皆さんが、園内の遊歩道を散策しながら自然観察を楽しみました。



【お話される藤原先生】

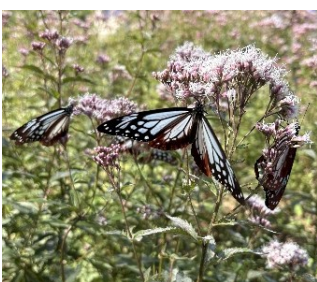
今回の講師は元豊川市立音羽中学校長の藤原優年先生です。園内の散策路沿いで見られる秋の動植物について、実際に観察しながら解説していただきました。先生から示された観察の目的は3つでした。木の実などの実りの秋を観察することと秋の渡りの生き物を観察すること、そして標高差140m、往復5kmをウォーキングすることです。

散策を始めてまず、遊歩道横の斜面に見られる動物の足跡に注目しました。「これはイノシシの足跡です。足跡の形でどんな動物なのか分かります。」と図を使って説明されました。先生が事前に仕掛けられたペットボトルで作成したトラップ(罠)も紹介されました。トラップにはゴミムシが入っていました。「ゴミムシには多くの種類がいて、森の掃除屋さんの役目があります。」と教えていただきました。

遊歩道沿いのところどころでアケビが見られました。「これはミツバアケビですね。これから実が割れてきます。とても甘い味がしますよ。」ウラボシやゼンマイなどシダの仲間も多く観察できました。彼岸花も多く見られ、「彼岸花は名前の通り秋の彼岸の頃に赤い花を咲かせます。ただ、花が咲いても種はできません。球根が分球して増えていく



【アケビの実ができています】



【アサギマダラに感動!】

のです。彼岸花が咲けば、そこは人が手を加えた場所だと分かります。」との説明に納得です。そのほかここに書ききれないほど多くのことを教わりました。

途中の山野草園では、フジバカマの花畑にたくさんのアサギマダラが舞っていて、その美しい姿を撮影しようと思い思いにカメラを向けました。

出発から1時間半余り歩いてようやく頂上の展望ツツジ園に到着です。そこから三河湾、渥美半島、豊橋市や豊川市の街が一望でき、その景色に疲れが吹き飛びました。

最後に参加者アンケートから感想の一部を紹介します。

バッタを捕まえた。カマキリも見ただけ、捕まえられなかった。(子)

木の実や花のお話を聞きながら山を歩き、知らないことばかりで勉強になりました。日向は暑かったですが、日陰は涼しく、マイナスイオンを浴びられて良い運動にもなりました。念願のアサギマダラがたくさん見られて感動しました。また遊びに来たいと思いました。(母)

シダ植物は学校で習ったけれど、初めて本物を見た。(子)

日頃家族だけで散策すると、知識がないのでただ歩くだけになってしまいがちです。ネイチャーウォッチングでは、先生方のお話を聞きながらのため楽しみが増し、子どもにとっては長い道のりでしたが、無事に完歩することができました。(母)

説明を聞きながらの山での散策はとても勉強になりました。子どもたちも楽しそうでした。(母)

ボランティアの学生さんが子どもたちと手をつないで歩いてくれたおかげで、楽しく登れました!これからも、学生さんに来てほしいです!(母)



【参加家族、全員集合!】